

19. カボチャ新病害白斑病を起す病原糸状菌

農業環境技術研究所 環境生物部 微生物管理科

背景・目的

昭和59年鹿児島県で露地栽培カボチャに糸状菌による新病害、白斑病が発生、減収や品質低下をきたし、カボチャの生産上大きな問題となった。このような事情から、病原菌の分類学的な所属を検討するとともに、宿主範囲などを明らかにして、防除対策に資する。

内容及び特徴

(1) 本病では、灰白色の病斑が茎、葉柄、果梗、果実に現われる。

(2) 本病原菌の形態的特徴

菌そうは淡橙～淡褐色を呈するが、菌糸はほぼ無色、隔膜を有し、分岐し、幅は1.5～2.5 μm 、分生子は無色、長楕円形、2胞で、大きさ8.5-11.5 \times 2.3-3.1 μm 、分生子柄の先端で擬頭状に形成されるが、菌糸上に直接集塊となって形成される場合もあった。分生子柄は、無色、単独で菌糸から生じ、分岐せず、基部に隔膜を有し、先端部に向けて細くなり、その頂部に分生子を形成した。分生子柄の大きさは23-76 \times 2.2-3.2 μm であった。

(3) 本病原菌は10-30 $^{\circ}\text{C}$ で生育し、生育最適温度は25 $^{\circ}\text{C}$ であった。

(4) ウリ類12種類37品種に噴霧接種したところ、ペポカボチャ、セイヨウカボチャ、ニホンカボチャの茎、葉柄で発病したが、それ以外のウリ類では発病しなかった。

(5) 本病原菌は*Cephalosporiopsis*に属するが、既報の本属菌5種とは形態、寄生性も異なることから、新種とし*Cephalosporiopsis cucurbitae* Hamaya et Inabaと命名した。

活用面と留意点

(1) *Cephalosporiopsis*属には、本病原菌を含め世界で6種だけが報告されている。したがって、本菌は標準種として重要である。

(2) 本病の発生生態及び防除方法を明らかにする必要がある。

キーワード

カボチャ新病害、白斑病、*Cephalosporiopsis cucurbitae*

(浜屋悦次、稲葉忠興)



写真1 カボチャ白斑病の茎の病徴

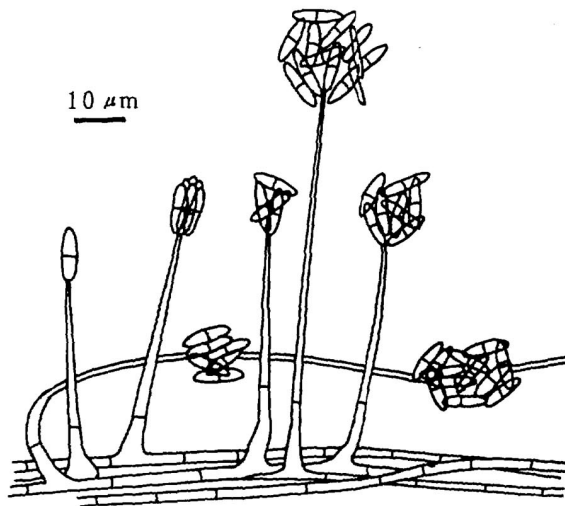


図1 カボチャ白斑病病原菌 *Cephalosporiopsis cucurbitae*
Hamaya et Inaba の菌糸, 分生子及び分生子柄